

No.29 協会だより

平成 27 年 01 月号
一般社団法人高知県木材協会

新年のご挨拶

木材協会会長 北岡 浩

明けましておめでとうございます。

平成 27 年の年頭にあたり謹んでご挨拶申し上げます。

昨年の早期までは、政府自民党の経済対策（アベノミクス）により、株価の上昇、円安の進行、景気動向指数の改善等、一定の明るい経済情勢がみられたものの、消費税増税後は、駆け込み需要の反動で、国内総生産（GDP）の 2 四半期連続のマイナス成長となり、消費税増税の先送り、年末には、解散総選挙が行われました。その結果、与党の圧勝により、アベノミクスの維持・発展が選択され、今後の景気動向が注目されるところであります。



木材産業の動向については、一昨年秋からの消費税増税前の駆け込み需要による原木・製品の暴騰、その後、昨年に入り、その反動による暴落と国産材の不安定で脆弱な需給体制を吐露する状況となりました。県内においても、同様で、安定した強固な需給体制のために、原木の増産が最重要課題で、そのためには、担い手の養成・確保が基本であり、本年 4 月からの林業学校開校へ向けて動き始めたところであります。

本年は、昨年に策定された地方創生ビジョンが具体化される年であり、国の交付税措置等、地方からの提案を行いながら誘導できるような取り組みが重要となって参ります。

木材協会としては、原木の安定供給と木材の需要拡大という二つを柱として取り組んで参りたいと考えています。原木の安定供給については、木質バイオマスの稼働などにより、一層重要な課題であり、具体的には、関係団体と連携を図りながら、優秀な担い手確保のための林業学校のあり方などについて提言をしていきたいと思っています。また、木材の需要拡大については、少子高齢化による先行き人口減の中で、住宅部門から非住宅部門への新たな需要を喚起する取り組みを行って参りたいと思っています。具体的には、各市町村に対して、公共建築物等への積極的な木造化・木質化を要請したいと考えています。

最後になりましたが、本年が皆さま方にとって幸多い一年となりますようご祈念して新年のご挨拶といたします。

平成 26 年度補正予算（林野関係）のポイント

1. 森林整備加速化・林業再生対策 546 億円

木造公共建築物・CLT製造ライン・木質バイオマス利用施設等の整備、間伐など自伐林家を含めた多様な担い手による地域の創意工夫に基づく取組を総合的に支援します。

2. 木材需要拡大緊急対策 26 億円

展示施設の整備、展示会の開催など住宅分野等における地域材の利用促進、木製家具の輸出促進、CLT等新たな木質部材・工法等の開発・普及の加速化等を支援します。

3. 森林・林業人材育成対策 3 億円

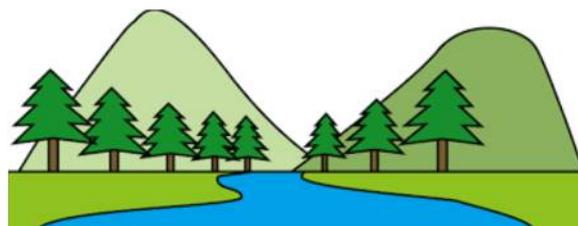
作業実態等の理解を図るためのトライアル雇用等の実施により、現場技能者の確保・育成を一層推進します。

4. 森林整備事業＜公共＞ 74 億円

地球温暖化防止のための間伐等の森林施業や路網整備を推進し、国産材の安定供給体制の構築や災害に強い森林づくりに貢献します。

5. 治山事業＜公共＞ 31 億円

集中豪雨等による被害が住宅・公共施設等に及ぶおそれのある地域における山地災害対策等を推進します。



平成26年度補正事業（木材需要拡大対策事業）

木造住宅等需要拡大支援事業へ応募予定

林野庁平成26年度補正予算 事業へのチャレンジ

川上～川下連携グループによる住宅分野における
木材需要拡大への取組

高知県林業活性化推進協議会

事業期間平成27年2月中旬～3月中旬の1カ月間

関連事業所参加型 地域産木材利用促進のための展示相談会の開催

①参加事業所の事例パネル展示

各種メディア活用による広報

②住宅相談受付（新築・改修共）営業支援

③モニター募集、モニターへの試供木材
プレゼント（柱・集成梁ほか）

④住宅へのCLTパネル利用促進コーナー

⑤優良事例集（ブランド化より）の発行



ご案内 (1)



Institute of Timber Engineering and Wood Technology
Graz University of Technology
グラーツ工科大学 木材工学技術研究所

CLT建築推進協議会



グラーツ工科大学 木材工学技術研究所

CLTセミナー in Kochi

イントロダクション	10:50 - 11:00	
ブロックA	11:00 - 12:30	(予定)
ブロックB	13:30 - 15:00	「欧州におけるCLT建築の設計」 講師: グラーツ工科大学木材工学技術研究所 ゲルハルド・シックホッファー教授 アンドレアス・リングホッファー氏 内容: CLT概論、CLT建築での耐久性・耐震性の確保、大スパン構造の実現ほか
ブロックC	15:20 - 16:50	(予定)
		「日本の歴史的木造建築とその構造」 講師: 東京大学 坂本 功 名誉教授 (CLT建築推進協議会 会長) 内容: 木造の文化財の修理や構造補強ほか
フリーディスカッション ～閉講	16:50 - 17:30	

- 日時 : 平成27年2月5日(木)
 - 主催 : CLT建築推進協議会
 - 会場 : 高知城ホール 中会議室
高知市丸ノ内二丁目1番10号
(<http://www.kochijohall.jp/>)
 - 参加費 : 無料
 - 申込み : 申込書にご明記の上、2月3日(火)までに事務局までFAXでお申込みください。
 - 定員 : 60人
- ※会場には駐車場がありませんので、お車でお越しの場合は近隣の有料駐車場等のご利用をお願いします。

<お問い合わせ先>
CLT建築推進協議会事務局
〒780-0082 高知市南川添10番21号 (高知県森林組合連合会内)
TEL : 088-855-7050 FAX : 088-855-7051
<http://www.clt-kenchiku.org/>

第2回CLT建築推進フォーラム in Kochi

～CLT建築の未来～

開催のご案内

CLT(クロス・ラミネイテッド・ティンバー)は、軽量かつ強度が高いことなどから、これまで木材があまり使われてこなかった中高層建築物への活用が期待されています。また、CLT工法の普及により、木材需要の拡大、林業の成長産業化を促進し、都市と地方の均衡のとれた発展につながることを期待されます。

CLTの普及が先行している欧州等にならない、我が国においても、法整備等に向けた様々な実験が行われていると同時に、全国各地で実証建築が着々と進んでおり、CLT建築物が身近な存在となる未来も、いっそう現実味を帯びてきました。

CLT建築推進協議会ではこのたび、国内外の学識経験者や実証建築に携わっている設計者の方々をお招きし、我が国のCLT建築の現状、そして未来像について語っていただくことで、この機運をさらに高めていきたいと考えております。

CLTに関心のある多くの方のご参加をお待ちしています。

プログラム	
11:00～11:15	開会あいさつ
11:15～12:15	基調講演 「CLT工法の課題と今後の普及に向けて (仮題)」 静岡大学大学院農学研究所 安村 基 教授
12:15～13:15	昼休憩
13:15～14:20	記念講演 グラーツ工科大学木材工学技術研究所 ゲルハルド・シックホッフアー教授
14:20～14:30	休憩
14:30～16:00	パネルディスカッション 「CLT建築の未来」 東京大学 腰原 幹雄 教授 (株)細木建築研究所 チームふつう合班 (株)日本システム設計 建築舎KIT
16:00～16:10	閉会あいさつ

基調講演



静岡大学
安村 基 教授

実大振動台実験等、CLTの実用化に向けた研究を先導されている静岡大学の安村基教授をお招きし、我が国におけるCLT建築の未来像についてご講演いただきます。

技術交流記念講演



グラーツ工科大学
G・シックホッフアー教授

この度、高知県立森林技術センターとグラーツ工科大学木材工学技術研究所で技術交流を開始することとなり、本フォーラムにおいてその調印式を執り行うとともに、交流の開始を記念してシックホッフアー教授からご講演いただきます。

パネルディスカッション



東京大学
腰原 幹雄 教授

当協議会の建築プロジェクトにおいてご指導いただいている東京大学の腰原幹夫教授をコーディネーターに迎え、県内のCLT実証建築の関係者とともに、設計サイドからCLTの現状と未来について語り合ってください。

- 日時：平成27年2月6日(金)
- 主催：CLT建築推進協議会
- 会場：高知城ホール 4F
高知市丸ノ内二丁目1番10号
(<http://www.kochijyohall.jp/>)
※会場には駐車場がありませんので、お車でお越しの場合は近隣の有料駐車場等のご利用をお願いします。
- 参加費：無料
- 申込み：申込書にご明記の上、2月3日(火)までに事務局までFAXでお申込みください。
- 定員：200人

<お問い合わせ先>

CLT建築推進協議会事務局

〒780-0082 高知市南川添10番21号(高知県森林組合連合会内)

TEL:088-855-7050 FAX:088-855-7051

<http://www.clt-kenchiku.org/>

ご案内 (3)

第6回新たな「木材利用」事例発表会 ～ 「木材利用」の意義と効果の見える化 ～

1 開催日等

日時 平成27年2月12日(木) 13時00分～17時00分
場所 木材会館7階ホール(東京都江東区新木場1-18-8)
主催 一般社団法人 全国木材組合連合会、木材利用推進中央協議会
定員 250名(一般消費者、建築・設計・木材関係者等)

2 事例発表(予定)

(第1部) 木材利用の意義とその効果の見える化 13時15分～14時45分

ア 中・大規模建築物を木造化、木質化する科学的根拠とその評価 ……東海大学教授 杉本洋文 氏
イ 木の街づくり事例とその効果 …… 独立行政法人森林総合研究所 研究コーディネータ 木口 実 氏

(第2部) 「木材を使った街づくり」事例とその評価 15時00分～17時00分

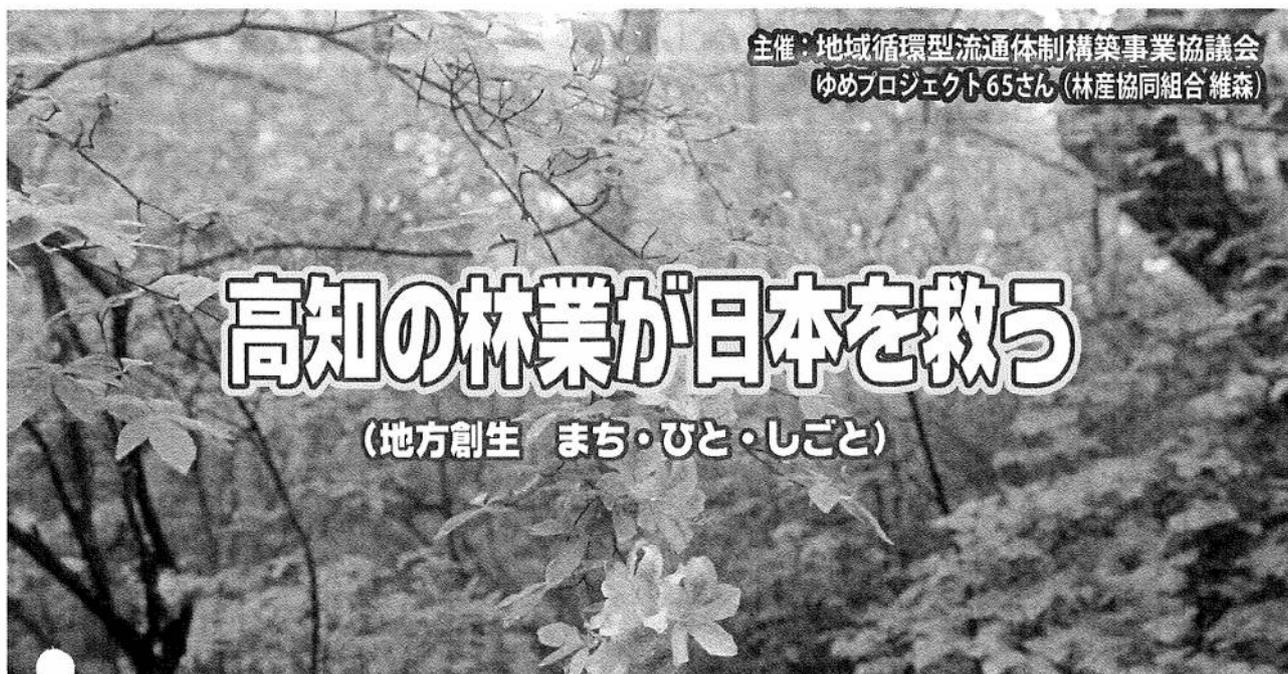
ア 学校の木質化と児童・生徒・先生の意識 …… 埼玉大学教授 浅田茂裕 氏
イ 木材利用とエンパワメント: 子どもと高齢者への効果評価 …… 筑波大学教授 安梅勅江 氏
ウ 秋田県の木造・木質化事例の効果と新たな流れ
……………秋田県農林水産部 林業木材産業課 木材利用推進班 班長 泉山吉明 氏
エ みなとモデルによる都市開発事例の状況と効果
……………港区環境リサイクル支援部環境課地球温暖化対策担当課係長 早藤潔 氏

参加申込書(お申込み FAX 番号 03-3580-3226)

会社名/団体名					
1 役職氏名			2 役職氏名		
住所	〒				
連絡先	TEL		FAX		Eメール

問合せ先 一般社団法人 全国木材組合連合会 TEL 03-3580-3215 FAX 03-3580-3226
〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-4-3 永田町ビル6F
Eメール info@zenmoku.jp ホームページ <http://www.zenmoku.jp/>

ご案内 (4)



林野庁「地域材利活用倍增戦略事業」報告会

開催日：2015年2月21日(土) 9:00～15:00

開催場所：健康カフェとりごえ2F・通所介護あゆみ道場 住所：〒780-0949 高知市鳥越1-1 電話：088-856-6470

＜問合せ＞ ゆめプロジェクト65さん：事務局長 佐々木 学 携帯：090-6285-2599 事務局次長 吉永 哲也 携帯：090-8978-5031

午前の部

「地域循環型流通体制構築事業」報告(VTR)上映(20分)

テーマ「地域や医療・介護等の分野への利用拡大(高知の林業が日本を救う)」

● 林野庁長官 今井 敏様 講演(15分)

● シンポジウム(90分)

林野庁長官 今井 敏氏・高知県知事 尾崎 正直 氏

医療法人恕泉会 治久会理事長 内田 泰史 氏 ほか

● 元関西学院大学教授 野田 正彰氏 講演(30分)

昼食・休憩(60分) 来場者同士の体験・ふれあい・自由会コーナー
弁当の注文(有料)受付ます

午後の部

ディスカッション(120分) テーマ「地域材利活用拡大へのアプローチ」

● 池川木材工業有限公司 代表取締役会長 大原 徹郎様(15分)

テーマ「地域循環型木材産業の重要性—木は人間にも経済にも良い(木は神様からの贈り物)」

● 健康カフェとりごえ施設担当者(15分)

テーマ「木材建築医療現場での体感値のマーケティングデータの報告」

● 物部森林組合 代表理事組合長 小松律男氏(15分)

テーマ「新月伐採(すこやかな社の建設)」

● 株式会社上田建築事務所 代表取締役 上田 堯世氏(15分)

テーマ「私の土佐派の家」

● 銘建工業株式会社 代表取締役社長 中島 浩一郎 氏(15分)

テーマ「CLT普及拡大への戦略」

● 参加者との質疑応答(フリートークほか)



全国木材産業振興大会功労者祝賀会

第 49 回全国木材産業振興大会が東京国際フォーラム（26/10/15）で開催され、本県からは 3 名の方が受賞されました。

山村 一正 様（林野庁長官感謝状）

野村 俊博 様（全木連会長表彰）

山上 哲生 様（全木協連会長表彰）

この榮譽を称え、県内有志一同による祝賀会が三翠園で行われました。

（平成 26 年 12 月 5 日）



合法木材供給事業者研修

合法木材供給事業者研修を県内で認定事業者となった方を対象に実施しました。高知県内の認定3団体（森林組合連合会・素材生産業協同組合連合会・木材協会）の合同研修会でした。四万十市・高知市の2会場に分けて実施しました。

① 四万十市会場 平成26年11月27日 中村地区建設会館会議室 参加人数50名



② 高知市会場 平成26年11月28日 高知市春野ピアステージ 参加人数124名



製材若手の会 第2回勉強会

平成26年12月9日高知市西部健康福祉センター

5年後、10年後高知県の林業・木材の業界はどうなる？

木材協会の呼びかけにより製材の若手達が集まり、勉強会を開催しています。



今回は第2回目、前回出された意見「川上の方も交えて話し合わねば」ということから(株)ゲンボク市場と(株)はまさき・(有)公文林業・(有)川井木材の素材生産事業者の方もお招きし、さらに若手の加わった会議となりました。

「市場に行っても原木が少ないのはなぜ？」から始まり、各社の仕入・販売を紐解くうちに見えてくる複雑な流通経路。

だんだん議論はヒートアップし、共通認識として「今のままではいかんちや」情報の交換をもっと多くし、協力体制を取らねば。

参加者からは「有意義な会、今後も呼んでほしい」という意見が多く出ました。次は、県外の大型工場等への訪問研修なども企画してみようと考えています。



サポート事業 経営セミナー

高知県内企業の経営体質強化を図るため、関連業界の方々を対象として2つの経営セミナーを実施しました。

第1回目 平成26年12月9日 高知市西部健康福祉センター（若手の会終了後）

講師：寺本経営コンサルタント

寺本 毅彦 氏

テーマ：「合意するってどういうこと
とーwin-win ぜよ～」

講習会参加者：23名



第2回目 平成27年1月15日 高知市春野ピアステージ小ホール



講師：ナイス(株)常務取締役

鈴木 淳 氏

テーマ：「韓国住宅・製材市場の
現状と展望」

講習会参加者：49名



海外への木材輸出について学びました。

（備考：第2回目のセミナーについては、主催・JETRO日本貿易振興機構、
共催・高知県木材協会となります。）

木材流通情報

2014年の回顧と2015年の展望①

1. 住宅建築

2014年の住宅着工は消費税引き上げの反動減により13年度の約98万戸から大きく減少し84万戸程に落ち込んだ。特に一般住宅（戸建て分譲含む）が全国的に大きく減少したが、貸家は相続税の改正で13年度37万戸、14年度33万戸が見込まれ比較的好調な分野だった。

2015年の住宅需要は消費税10%への引き上げによる当面の駆け込み需要が見込めず、2014年より更に減少していくものと予想される。

根本的な原因は人口減少で、世帯数の増加は2015年がピークとなる。その後は減少に向かうことや、空家率の増加、そして最も影響が大きいといわれているのが少子高齢化による住宅取得層の人口減少、今後は非住宅木造建築物の推進などの対応が迫られると思われる。

住宅リフォーム市場も2015年は上記の影響などで前年度を下回る見方が有力だ。国も住宅市場活性化策として、フラット35の金利引き下げや省エネ住宅に関するポイント制度などを導入する。



【土佐材で建築中の診療所・京都】



【高知おおとよ製材・四国の山・青空】

2. 国産材需要

2014年の国産材素材需給は10月までの累計で製材用が1,024万9,000 m³（前年同月比4.6%増）、合板用が253万7,934 m³（同0.1%増）となり、新設住宅着工が10月までの累計で7.7%減少したにもかかわらず素材需給は拡大した。

素材需要の拡大は製材工場や合板工場の設備投資が原因で、これが丸太需要を拡大させ、製品需要を緩和させた。この結果、起こったのは丸太価格（特に杉）の高止まりで、製材工場は製品の価格が下落し、丸太の仕入価格が上昇する2重の打撃となった。

2015年は輸出用丸太需要の増大や発電施設が相次いで稼働することからバイオマス燃料需要により今後の素材需要は確実に増える見込みとなる。現状の生産量では素材量の確保がままならず、一段とひっ迫すると見られ、市況が回復しなければ昨年以上に深刻な原木高・製品安に苦しめられる。この状況から抜け出すためには、製材品の値上げだが、住宅着工が今年一段と減少する見込の中で、本来なら値上げを期待できる環境ではなく、可能性があるとするれば円安進行に伴う外材価格の上昇や入荷の減少がおこることだ。

丸太価格が下がる可能性はもっと期待しにくいだが、皆伐の促進が進めば、未利用材だけでなく用材供給の拡大も期待できる。製材品も今後は輸出用材を含めて建築用材以外も模索していくことを検討する時期に来ている。

2014年の回顧と2015年の展望②

3. 外材需要

2014年の外材は消費増税による住宅着工の反動減が予想以上に大きかったこともあり、供給過剰になって夏から秋にかけて増大する在庫に苦しめられた。2015年は輸入コスト増の要因となっている産地高・円安は継続する見通しで米材、欧州材、ロシア材、南洋材、NZ材とも厳しい競争を強いられそうだ。



【須崎港】

4. EW（エンジニアングウッド）

2014年の構造用集成材は集成平角や集成管柱で相場ギリ安が際立った。前年の旺盛な需要が原因で上半期は入荷抑制が進まなかった。下半期には輸入品の入荷抑制が進み始めるが、需要は低迷し製品安値が続く展開で推移した。円安によるラミナのコスト高が生産環境を圧迫し、製品値上げが“待ったなし”の状況になってきた。

2015年は国産材集成材も栃木県や山形県で新規工場が立ち上がるなどして生産・供給環境も整ってきたが、住宅市場は縮小傾向で今年は実需に見合った商売が求められそうだ。

EWは新たな需要創出で柱・梁から土台まで市場を広めていこうとする動きや、構造用だけでなく製品特性を生かし幅広い需要に対応する取組みで中・大型建築物への志向が目立つ。

5. 国産合板

2014年の国産針葉樹合板は駆け込み需要後の反動減で需給調整に迫られた。5月の反動減以降各メーカーが減産したものの供給過多のまま推移し相場も需給動向そのままにジリジリと下降基調をたどった。

2015年も国産針葉樹合板は現在の主力製品が構造用中心のため、新設住宅着工数が前年を上回ることが無い限り、メーカーの生産調整は不可欠となりそうだ。その状況下で脱・構造用合板の拡販が合板需要を左右しそうだ。針葉樹塗装型枠用合板や針葉樹内装用合板の販売強化が求められる。

6. チップ

2015年の木質チップは、いよいよバイオマス発電向けの需要が顕著化してくる。新設バイオマス発電所の計画数は全国で約70箇所あるが、今年末までに稼働するのは全国で32カ所に及び（高知県は2カ所）その年間消費量は300万トン弱になる。（杉で換算すれば240万m³）このため、製紙工場や木質ボード工場側は神経を尖らせている。

7. プレカット

2014年のプレカットは2月までは駆け込み需要の持越し分で昨年同様の忙しさが続いたが、3月以降は反動減が始まり受注が減少傾向に入った。夏場までは先送りしていた物件があったが、これ以降は秋閑の時期に入っても受注回復が少なく、円安による輸入材のコストが上昇しており、プレカット会社の経営を圧迫している。

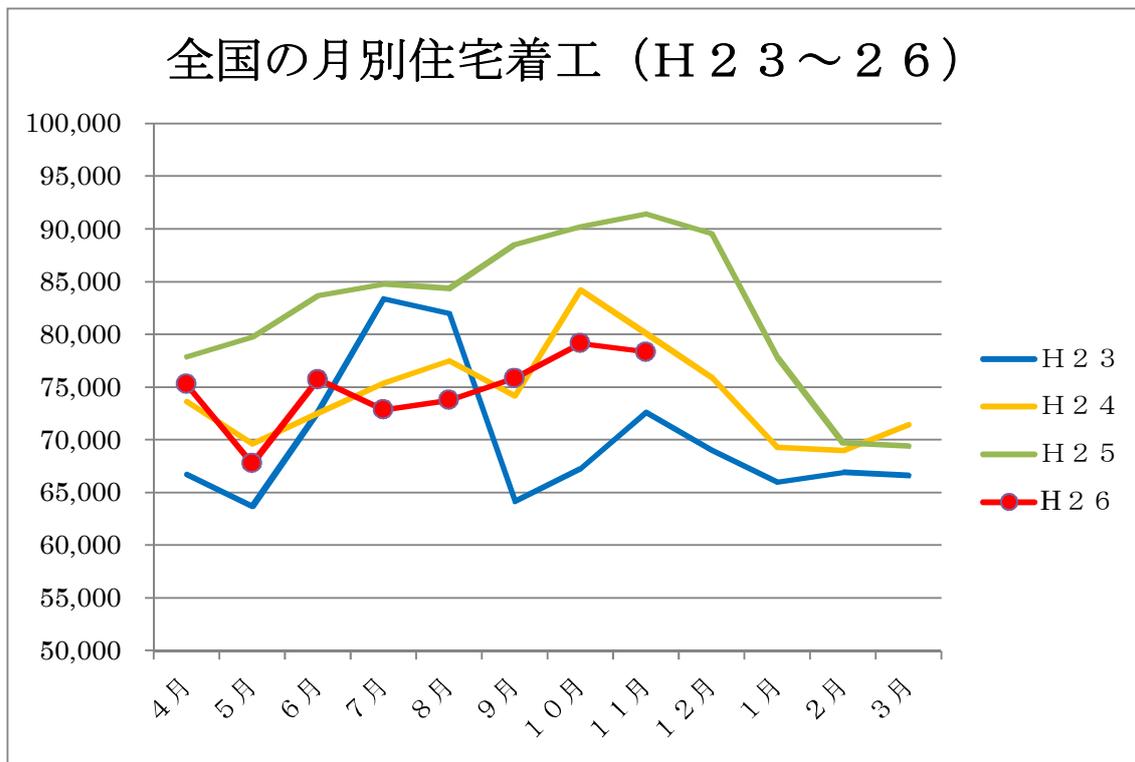
2015年も一般住宅の需要低迷が見込まれるなか、公共や民間の中・大規模非住宅物件受注獲得に、新たな工法の提案を含めて力を入れており、今後の方向を模索している。

【日刊木材新聞・木材建材ウイークリー・新建ハウジング参照】

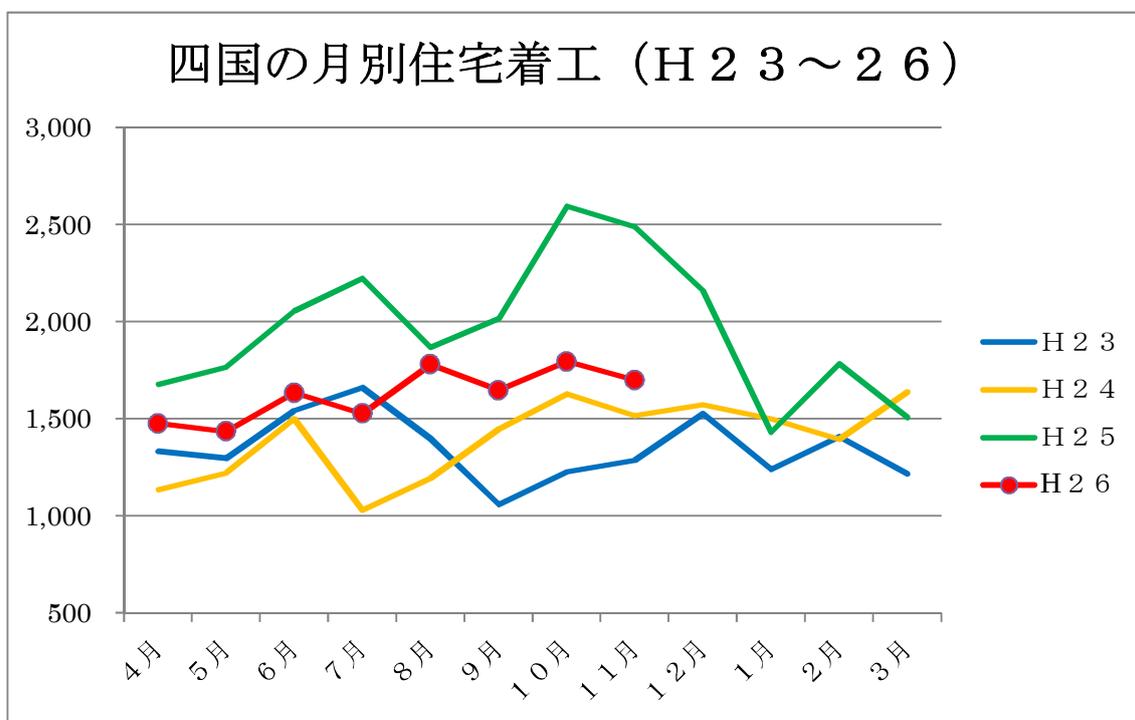


【高知プレカット】

資料(1) 全国の月別新設住宅着工(23年～26年11月まで)



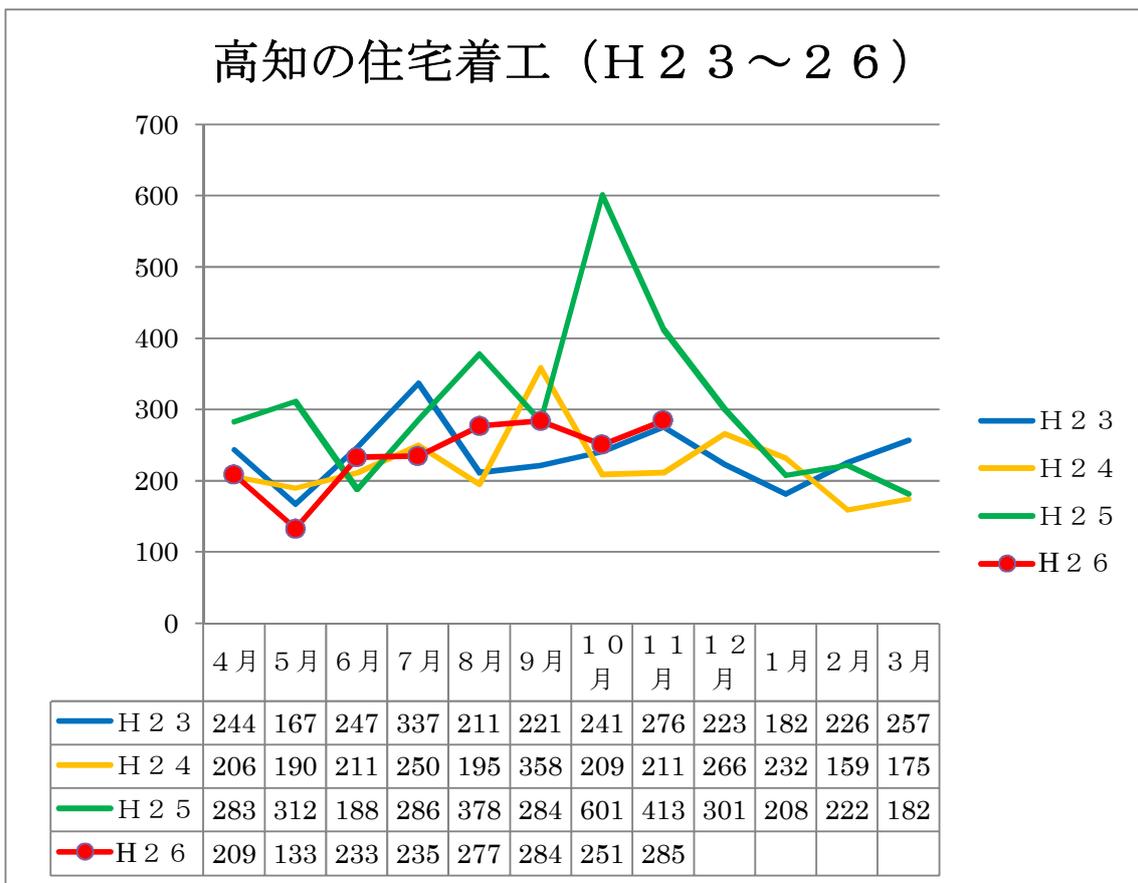
資料(2) 四国の月別新設住宅着工数(平成 23～26年11月まで)



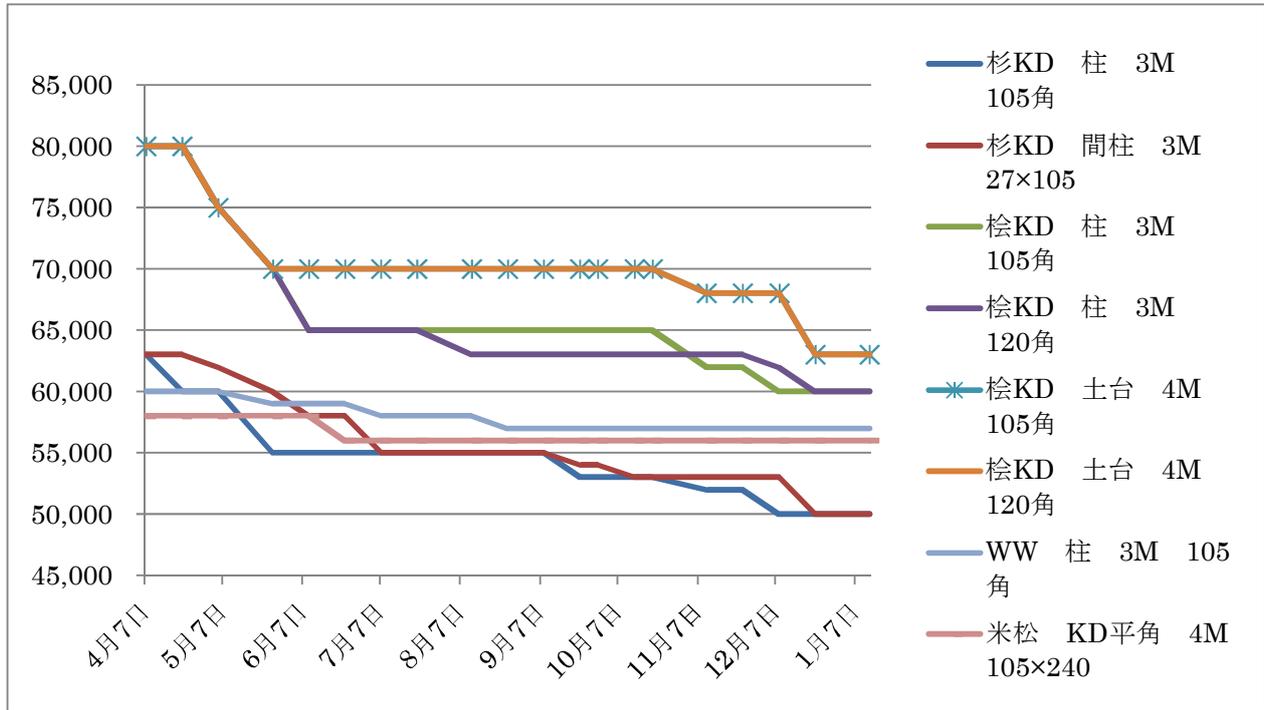


【ほぼ完成の木造住宅・香我美町】

資料(3) 高知県の月別新設住宅着工数(平成 23～26 年 11 月まで)

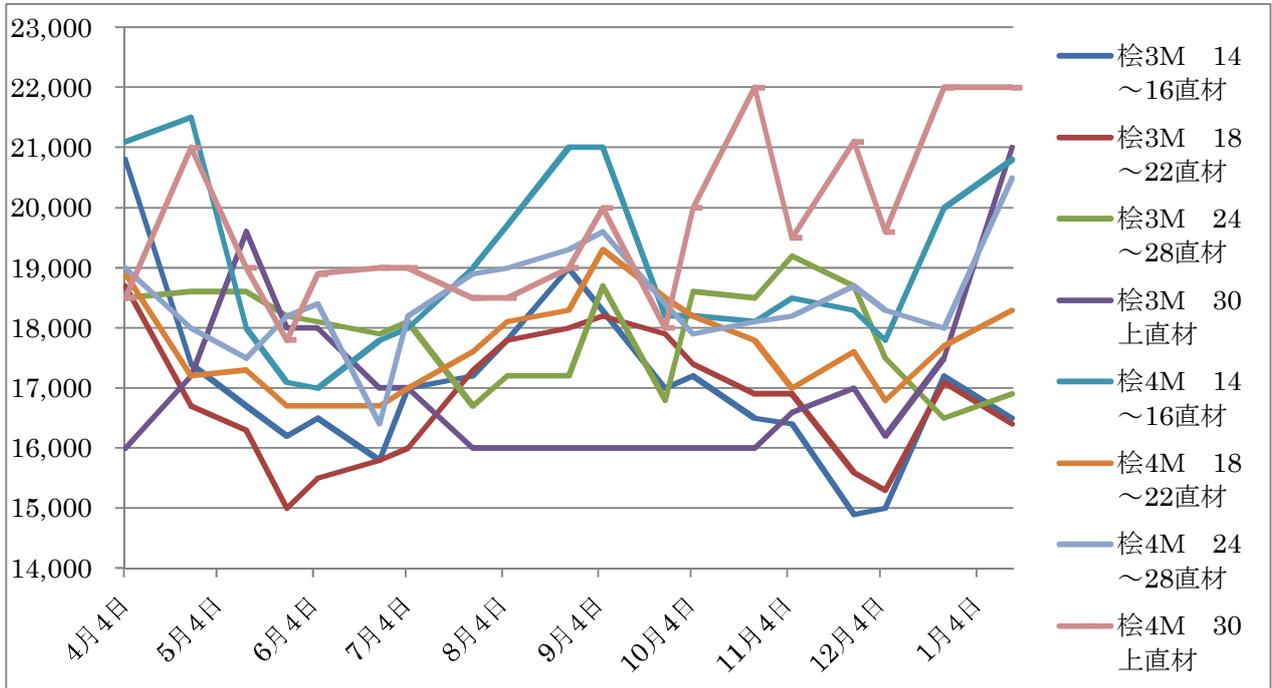


資料(4) 製品市況 関東市売り場(26年4月～27年1月7日まで)

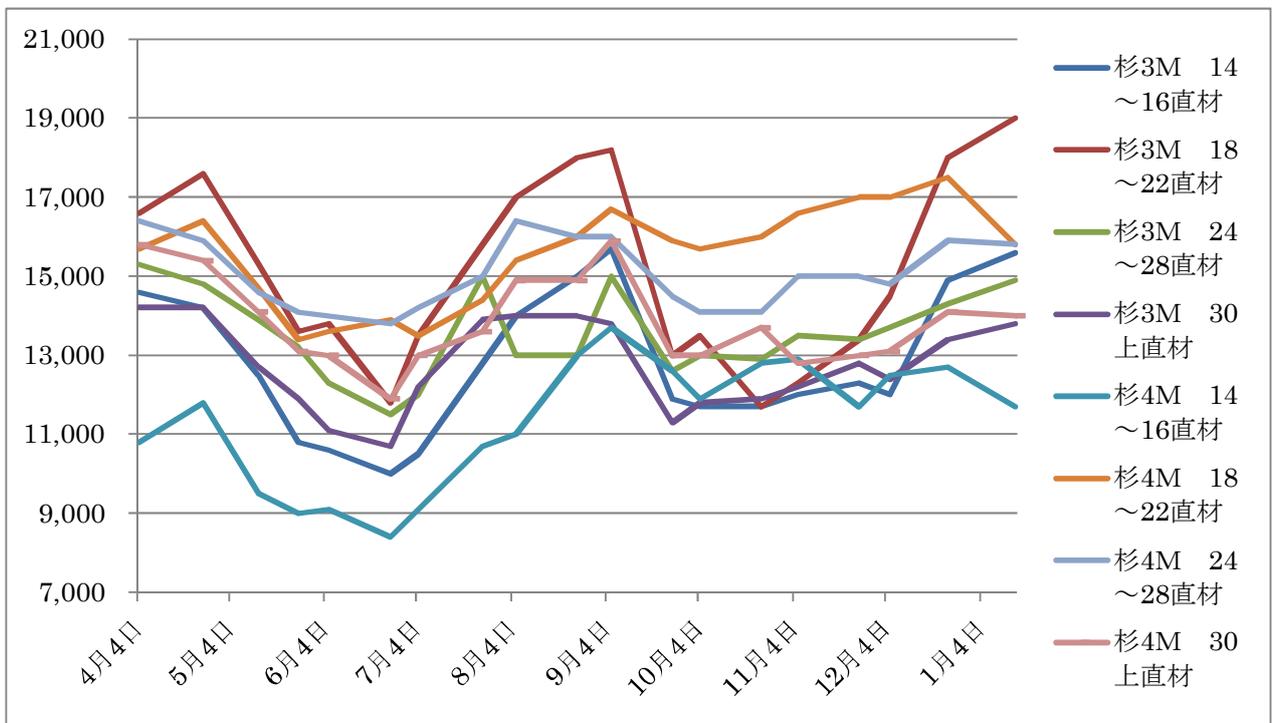


【丸宇下館 26年 11月】

資料(5) 平成 26 年度丸太市況 桧 3~4M (久万広域森林組合分) 1 月 15 日まで



資料(6) 平成 26 年度丸太市況 杉 3~4M(久万広域森林組合分) 1 月 15 日まで



1月の商況

年明けも消費税増税による反動減が続き住宅需要が回復していない中で、再増税が延期となり当面は盛り上がりには欠ける展開になりそうだ。外材は円安により価格引き上げ、国産材は丸太の慢性的な不足により、各メーカーは苦しい状況が続きそうだ。政府による支援策で今後の住宅の喚起がどの程度できるかが注目される。また人工減少の中で、住宅以外の分野への進出も今後の課題となりそうだ。

(1) 丸太相場

年末・年始の冷え込みや雪が原因で、一部に素材生産が落ち込んだ。各製材メーカーの丸太在庫も少ない為、年末から年始にかけて市場の丸太価格が杉を中心に上昇していて、一部では桧の価格と並んだり、上回ったりしており、各製材所は製品市況もあいまって急速に収益を悪化させている。次年度からは仁井田のバイオマス発電が稼働を始め、今以上に丸太の手当てで困難が予想される。



【ゲンボク市場】

(2) 製品相場

構造材は住宅需要の落ち込みで引き合いが少なく特に桧が弱く推移している。造作材は年明け以降、外材製品の値上り予測が確実視される為、買いがそちらに集まり国産材製品は全体的に動きが鈍かった。羽柄材は一部杉製品にWウッド®製品の価格上昇と欠品から代替品としての需要が出ている。

(3) 外材製品

産地丸太高と円安で輸入コストが大幅に上昇している為、外材製品は値上げの様相を強めている。Rウッド®・Wウッド®・米松製品とも昨年末より値上げが続き、日本国内の需要が低迷しているため、製材品の手当ては活発化しておらず、当用買いが続いている。

(4) NZ・チリ材

年末にかけて荷動きに温度差が見られた。パレット・梱包向けの製品は比較的安定しているが、円安による丸太の値上がりで各メーカーは製品の値上げを要請し始めている。その一方で、住宅関連需要の低迷の影響もあり、国産材関連（杉やカラマツ）も流通量が増加している。

(5) 針葉樹合板

年末にかけて配送難航と小幅値上げで国産針葉樹合板は底打ちの様相だ。年明けも実需の回復には時間がかかるとの見方が多く、弱保合で推移する様子。南洋材合板は円安によるコスト高で値上げが回避となっている。

(6) プレカット

プレカット工場は年度末完工に向けて仕事が忙しくなってきた。全国的に集合住宅や非住宅物件の受注がけん引しているが、一般戸建て住宅の受注は依然として低迷しており、物件数は例年と比べても少ない。そのため年明けからの受注も不透明感がぬぐえていないため、先行きが不安だ。

(7) 住宅受注

住宅着工は消費税引き上げ後の反動減による落ち込みから回復しておらず、特に持ち家が落ち込んでいる。大手住宅メーカーでの住宅展示場来場者数には回復傾向がみられるが、消費税の増税先送りもあり様子見をする顧客が多い。

(8) 住宅助成

政府も住宅支援策として 2015 年度に新たな制度を策定している。

- ① フラット 35 の金利引き下げ幅の拡大
- ② 一定の省エネ性能を持った住宅の建築やエコリフォームを対象とした住宅エコポイントの復活
- ③ 省エネ性能や耐久性に優れた木造住宅・建築物の整備を支援する「地域型住宅グリーン化事業」
- ④ 高齢者・障害者・子育て世代等の多様な世代が交流し、安心して健康に暮らすことができる「スマートウェルネス住宅推進モデル事業」

(木材新聞参照)

土佐材流通促進協議会

展示会事業

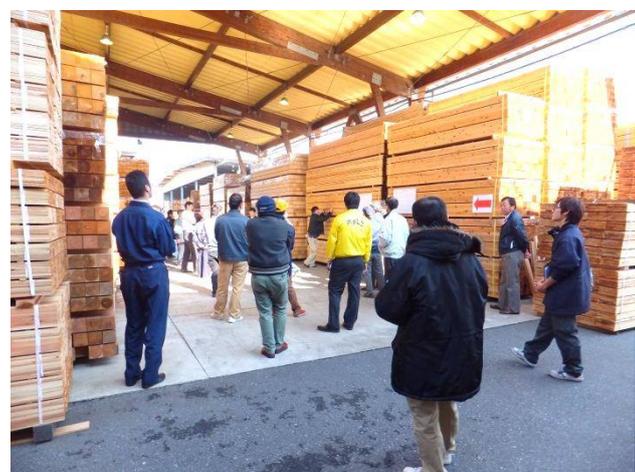
丸宇木材市売株式会社 第5回土佐材展示会（11/21） 下館市場



土佐材流通促進協議会が始まった時から拠点として大きな取引先となっている丸宇木材。5回目の土佐材展示会は下館市場開設22周年記念市と併せて開催され、約100人の買い方で賑わった。

県内9製材所から合計500m³を出材し、約8割の即日販売となった。

高知からは、山和木材(株)、秋山木工場、(有)関西木材建設が当日の市に参加した。





■開催日 平成27年**2月22日(日)**

■競り開始 午前9時30分～ 役物類
午後1時～ 一般材

昼食は準備しております。

■場所 協同組合 高幡木材センター

高知県高岡郡四万十町東大奈路505番地
Tel: 0880-22-1241

■出品材 優良土佐材(スギ・ヒノキ他)
多数出品

■後援 高知県・高知県木材市場連絡協議会

■主催 土佐材流通促進協議会

高知県内3市場合同市



共
催

(協)高知木材センター

(協)高幡木材センター

(協)西部木材センター

冷たい雨の日だけど.....



【高知県林材 1月26日】

銘木の市場はヒートアップ、約90人の買い方で熱いセリをおこなっていました。

その向こうで土佐グリーンパワーが試運転中
熱そうな蒸気が空に昇ってます。

建築材か燃料か、山で何十年も生きてきた「木」の末路は如何に。



一般社団法人 高知県木材協会

〒780-0801

高知県高知市小倉町2番8号

TEL : 088-883-6721

FAX : 088-884-1697

HP : k-kenmoku.com

MAIL : info@k-kenmoku.com